アクセスが便利に！

道路拡張工事始まる!!

ふくろうの郷開所から1年、約5000人の見学者が訪れています。

ふくろうの郷への道が狭く、大型バスでは通行が不可能で遠回り、近くの中学校から歩かれた団体もありました。

この度、地元町内会から洲本市への要望が叶い、中川原中学校からの道路を拡張していただくこととなりました。

これにより大型バスでもスムーズにふくろうまで来ることができます。

■研修報告

介護：濱田良介

ユニットリーダー研修のため、1月29～31日は東京へ、3月1～2日は宮城県に行ってきました。

ふくろうの郷のようなユニット型の施設で働いている職員が全国から集まり、今それぞれが抱えている問題や今後どうすれば施設におられる入所者さん達の生活の向上を支援できるのかを講義や施設研修という形で学びました。

研修先の施設では入所者さん各個人で好きなように時間をすごしていらっしゃいました。施設側から予定を提案するのではなく、入所者さんのペースで暮らすことを大切にしていました。

しかし、職員が入所者さんの希望・要望を把握していないと、放ったままの状態になることが心配だと感じました。

短い期間でしたが、他施設の職員さんとの意見交換により良い刺激を受けた研修でした。

今後は学んだことをふくろうの郷でもよい形で活かせるようがんばりたいと思います。

■曲田山へお花見

4月3日と5日に曲田山へお花見に行ってきました。

参加入所者44名みんな楽しみに待っていました。

幸い両日とも天候に恵まれ、ぽかぽか陽気の中、お団子、甘酒、ビール、日本酒を飲みながら満開の桜を満喫していました。

▲どじょうすくいを披露する勝楽さん

中でも入所者の勝楽進さんは真っ赤な顔で菅笠をかぶり踊りを披露！みんなびっくり！笑いを誘っていました。

陽気につられて、高台の公園まで桜の下をみんなで散歩、みんなとっても楽しそう。

そして最後にみんなで、はいチーズ！笑顔に包まれたひとときを過ごすことができました。

入所者の皆さんが喜んで下さったことが何よりでした。最後に、今回ご協力いただきましたボランティアの皆様方にお礼申し上げます。ありがとうございました。（介護…角村）

ようこそふくろうの郷へ

フィリピンからの研修生

リベェラ マ ロウェナ ビーさん

▲愛称ウェンさん。
家族みんなろう者で、4月中2週間にわたり研修をし、国籍を越えた交流をしてくださいました。

●花見団子

花見といえば花見団子。庶民の花見にふさわしいお供として江戸時代から定番となっています。

月見で食べる「月見団子」と対照的に桜色（薄い赤色）、白色、緑色などの色で華やかな色彩をつけます。この三食の組み合わせが一般的で、桜色は桜を表して春の息吹を、白は白酒で冬の名残を、緑はヨモギで夏の予兆を表現しています。（調理…桐本）

【訃報】

志田　こすゑさん

平成19年3月20日

21時24分　永眠

享年89歳

志田こすゑさんは昨年の4月に夫婦仲良く入所されました。笑顔がよく似合う女性でした。

何をするにもご夫婦一緒で行事にも参加されることが多く、本当に仲の良いご夫婦でした。

3月29日が誕生日だったこすゑさん、残念ながら90歳を目前にお別れすることになってしまいました。心よりご冥福をお祈りいたします。

ふくろうのダンディNo.1

大鋸　實さん

大鋸さんは、入所日当日、腹水が溜まった危険な状態で入所され、ふくろうに来るやいなや生命危ぶまれた方です。入所後しばらくはあまり話しをされなかったのですが、徐々に入所者、職員とも打ち解けて、会話が増えてきました。

優しい性格の持ち主で常に周りの人を気にかけておられ、食事の時にはおしぼりを配ってくれたりします。また裁縫が上手で裾上げをしてくれたこともあります。

そんな大鋸さんの趣味はテレビを見ることです。特に映画を見るのが大好きで夜遅くまで見ています。

「時間遅いし、寝ないの？」とたずねても「おもしろいからもっと見る」といって熱心に見ておられます。

テレビを見ること以外にも趣味や楽しみを探していき、共に楽しみ合える生活を援助していきたいです。（介護…久保）

- ▼大正8年8月25日生87歳
- ▼神戸市で10人兄弟の5番目として出生
- ▼父は畳屋・不動産屋をしていた
  学校へは行かず、父の仕事(大工など)を手伝っていた
- ▼20代の時、少しの間寿司屋で働いた経験がある
- ▼以前の施設ではコミュニケーションが困難だった為、H18年3月「淡路ふくろうの郷」に入所

4月・5月　おたん生日おめでとう

花のような
かわいらしい笑顔
永吉ハナエさん(90歳)
大正6年5月16日

花ユニットのアイドル
長塚淑子さん(58歳)
昭和24年5月28日

竹細工でかごなどを
作っていました。
安井信重さん(83歳)
大正13年4月10日

牛のお世話を
していました。
宮内武友さん(77歳)
昭和5年4月17日

午後のコーヒーを
欠かせません。
芝田　昭さん(72歳)
昭和10年4月2日

元播磨町ろうあ協会の
会長でした。
伯井信良さん(70歳)
昭和12年5月11日

ユニットで毎日会話を
楽しまれています
高田政子さん(90歳)
大正6年5月20日

竹細工歴30年！！
笠木　博(79歳)
昭和3年4月24日

ビーズ遊びが大好き
山口宏子(62歳)
昭和20年4月8日

電動車いすで
今日もドライブ
森　敦子さん(81歳)
大正15年4月26日

助成いただきました

日本財団よりストレッチャーワゴンをいただきました。

車椅子での移動も楽々です。
ありがとうございました。

よろしく

2月に病状悪化のため入院・退所していましたが、4月19日からまたふくろうで生活できるようになりました。
おかえりなさい！

竹鼻加三さん

淡路ふくろうの郷建設運動の名旗手
小松　博 理事　逝去

聴覚障害者福祉の向上を願いながら・・・

平成19年4月8日(日)午後11時30分頃、当法人理事小松博氏が逝去されました。享年63歳。

小松氏は、30年前の兵庫県聴覚障害者協会発足時より、聴覚障害者の社会参加と平等のために精力的に活動されていました。

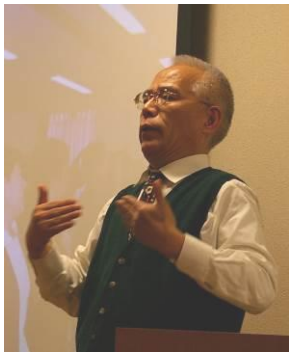
平成7年に起こった阪神淡路大震災の復興支援では、支援対策本部において県内各地の避難所へ出向き、聴覚障害者の実態調査をはじめ、必要な支援をする指揮をとられました。

震災での経験は平成16年に起こった台風23号による豊岡・淡路大水害でも生かされ、災害の次の日には現地へ行かれ、情報収集と問題解決のために奔走されました。

また、平成14年に発足したひょうご高齢聴覚障害者施設建設委員会の事務局長として、淡路ふくろうの郷建設運動の中心となって働き、「兵庫はひとつ！」をスローガンに運動の機運を高め、5億円という莫大な自己資金確保の先頭にたたれました。

最近では、全国各地への講演活動で、聴覚障害者の緊急時の対策や支援について、また施設建設運動について、入所者を通して表面化する高齢化問題について等、自らの経験を基に語り広めておられました。

昨年、国連にて障害者権利条約が可決された際は、日本国内の聴覚障害者の権利向上への期待と新たな問題への対応について、活動への意欲を持たれていただけに、残念でなりません。



職員研修で語る小松氏

建設運動の協力をお願いするため、小松さんと一緒に各地を回ったときのことです。しきりに「桜がすごく好きなの！」とうれしそうに言っていました。

桜の花を見ると小松さんを思い出します。

天国では満開の桜の下で、故池尻先生が盛大な歓迎会を開いていることでしょう。

（元職員）

小松さんを偲んで

入所者の大波さんと

ふくろうに来ると、真っ先にユニットへ行き入所者さん達とお話しをされていました。職員の手話がまだまだなので、入所者が思っていることなどを伝えてくれました。ふくろうに泊まる時は夜間ユニットに来てはいろいろと励ましてくれたり、手話を教えてくれました。安らかに眠ってください。

（介護職員）

ふくろうの郷には小松さんのこだわりがたくさん詰まっています。玄関前のケヤキの木、エレベーターホールの吹き抜け、庭の樹木、屋根の緑色・・・どこを見ても小松さんの思いがいっぱいです。

（事務職員）